

1. 1月全国行事

1) 年末年始無災害運動

12月15日～1月15日

2. 安全衛生巡視 良い事例（抜粋）

3. 当社の事故・災害事例から : 薬液が目に入り、薬傷

4. 今月のヒヤリハット

5. その他

1. 1) 年末年始無災害運動

12月15日～1月15日

年末年始無災害運動は、働く人たちが年末年始を無災害で過ごし、明るい新年を迎えることが出来るようにという趣旨で毎年実施されています。

わが国の労働災害は長期的には減少傾向にありますが、平成28年上半期は製造業の死亡災害が前年同期比35.5%増となっております。

職場の安全と健康を確保するためには、経営者、労働者双方が改めて安全衛生意識、危機感受性を高め経営トップの強い決意のもとで安全衛生活動の総点検を行い、安全衛生管理体制の見直し、安全衛生教育の徹底を図ることが重要です。

とりわけ、年末年始は慌ただしい中での大掃除や機械設備の保守点検・始動等の作業が多くなります。このような状況を踏まえ、本年度の年末年始無災害運動は、

「無事故で締めよう 行く年を 無事故を誓おう 来る年に」

を標語として展開することとする。



2. 安全衛生巡視 良い事例（抜粋）

① 関東技術センター（宇都宮Gr）

GHS マーカー一覧表の掲示

② 古河工場

安全柵の設置（転落防止）



3. 当社の事故・災害事例から : 薬液が目に入り、薬傷

(1) 災害のあらまし

- ①分析液「CL-357」が固化していた為、ポリ容器の外蓋を外した。(内蓋は外さず)
- ②電熱器にて湯を沸かしサンプルのポリ容器を浸けて溶解させた。(70℃位)
- ③ポリ容器内の液を均一にする為両手でポリ容器を持ち、右手刺し指で内蓋を押さえて振った。
- ④4～5回振った所で、ポリ容器の口からサンプル液が飛び出し、右目及び右顔面に掛かった。
- ⑤即、顔面及び右目を洗眼シャワーにて洗浄し、眼科医の診察を受けた。

(2) 被災程度 休業0日 全治0日

(3) 原因、問題点及び再発防止策

1) 人的要因 ①内蓋を外さなかった。→加熱溶解するときの作業方法の徹底。

②内圧が上昇し、突沸すると思わなかった。

③保護具の未着用(眼鏡)→保護眼鏡の重要性についての教育を全員を集め実施する。

2) 物的要因 ①低温で固化する。→固化する薬剤の分析方法の再教育・・・OJT。

②保護具(眼鏡)の未着用→保護眼鏡着用の看板を、大型化する。

③内圧が上がった。→加熱後の圧抜きを徹底する。

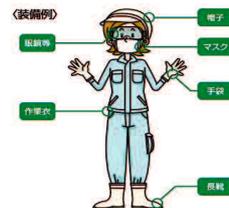
④加熱薬剤に内蓋を使用した。→加熱薬剤の「内蓋使用禁止」を徹底する。

3) 管理的要因 ①安全上の取決め、注意事項が不明確。→安全基準書を作成する。

②危険予知能力の低下。(慣れ)→毎朝のミーティング時、安全唱和を行なう。

今回の事故のKYTを実施する。

③安全教育を実施していない。→安全教育を年間スケジュールに取込み、計画的に実施する。



(4) 環境安全部から

- ①作業手順書が作成されていなかったのは問題と考えます。危険が予想される作業には必ず作業手順書を作成して下さい。
- ②危険を伴う作業では、保護具を必ず着用しましょう。また保護眼鏡などは着用忘れも有り得ますので、相互注意の習慣をつけましょう。特化則第43条、44条でも保護具の常備が謳われております。
- ③危険作業に対する慣れ、手抜きは事故の元です。初心を忘れずに作業して下さい。

4. 今月のヒヤリハット : 各事業場より提出されたヒヤリハットです。危険予知活動に利用してください。

「点検・確認・再点検 でももう一度 点検しよう」

事例	フォークリフトが梯子カバーに接触した。
どこで	工場で。
あらまし	産廃置き場で、フォークリフトで廃木材を廃棄してバックした時、旧NCC廃水設備の梯子の上部カバーとフォークリフトのヘッドガードが接触した。
原因	フォークリフト運転時、進行方向の上部の確認が不十分であった事。
教訓・対策	フォークリフトを運転する際は、進行方向の全体を確認する事。

5. その他

<省エネについて>

必要な場所では点灯を行い、不必要な場所は消灯を行なうなど、無理のない省エネ活動を行なって下さい。

「資源は有限！ 工夫は無限！ 取り組む姿勢が未来を作る！」 H28年度環境保全最優秀作品